

新旧対照表

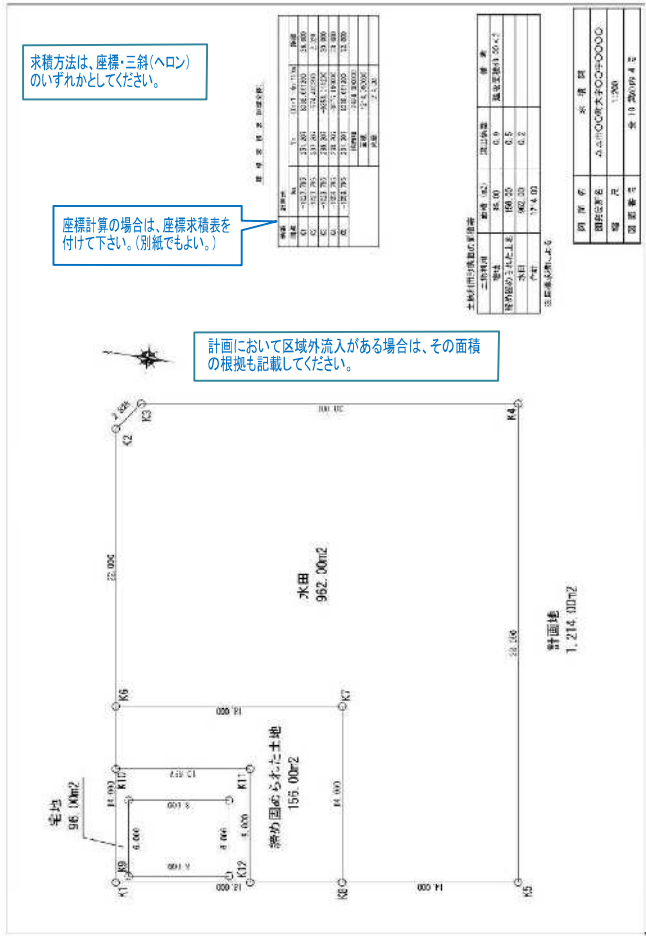
旧

新

設計資料編
第7章 許可申請図書等の作成事例

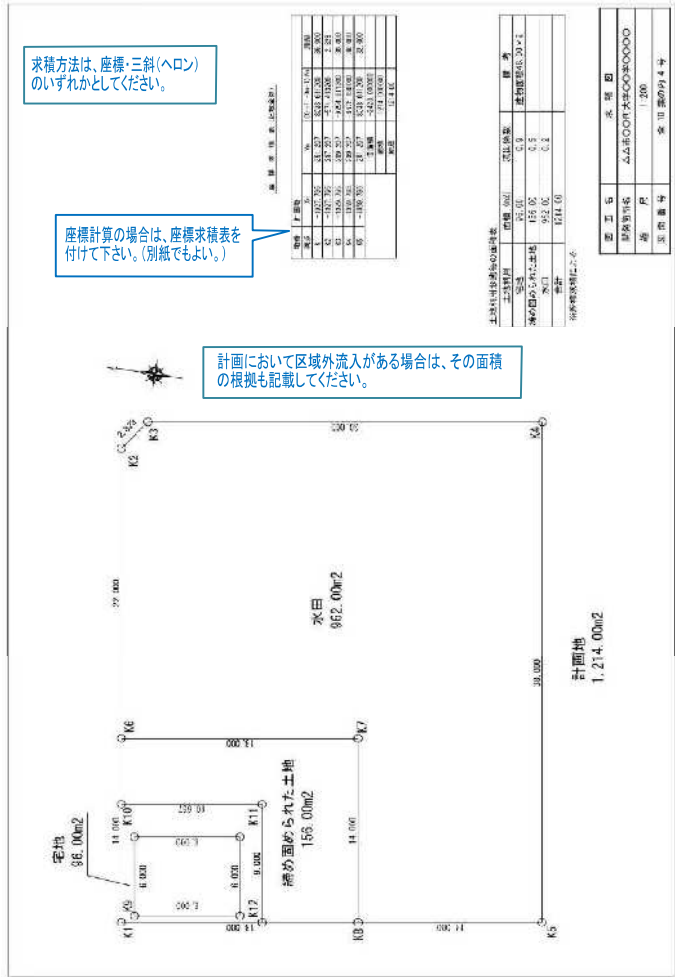
(7) 求積図（現況）（全許可申請。なお変更許可申請で当初と同じ場合は省略可能※）
※変更申請で添付を省略する場合は、省略した文書名と省略理由（“当初と変更無いため省略”等）を別紙にまとめて記載してください。

行為前における行為区域（及び集水区域）の土地利用形態ごとの面積の算出根拠。現況地
形図と整合すること。



設計資料編
第7章 許可申請図書等の作成事例
(7) 求積図（現況）（全許可申請。なお変更許可申請で当初と同じ場合は省略可能※）
※変更申請で添付を省略する場合は、省略した文書名と省略理由（“当初と変更無いため省略”等）を別紙にまとめて記載してください。

行為前における行為区域（及び集水区域）の土地利用形態ごとの面積の算出根拠。現況地
形図と整合すること。



新旧対照表

旧

新

設計資料編
第7章 許可申請図書等の作成事例

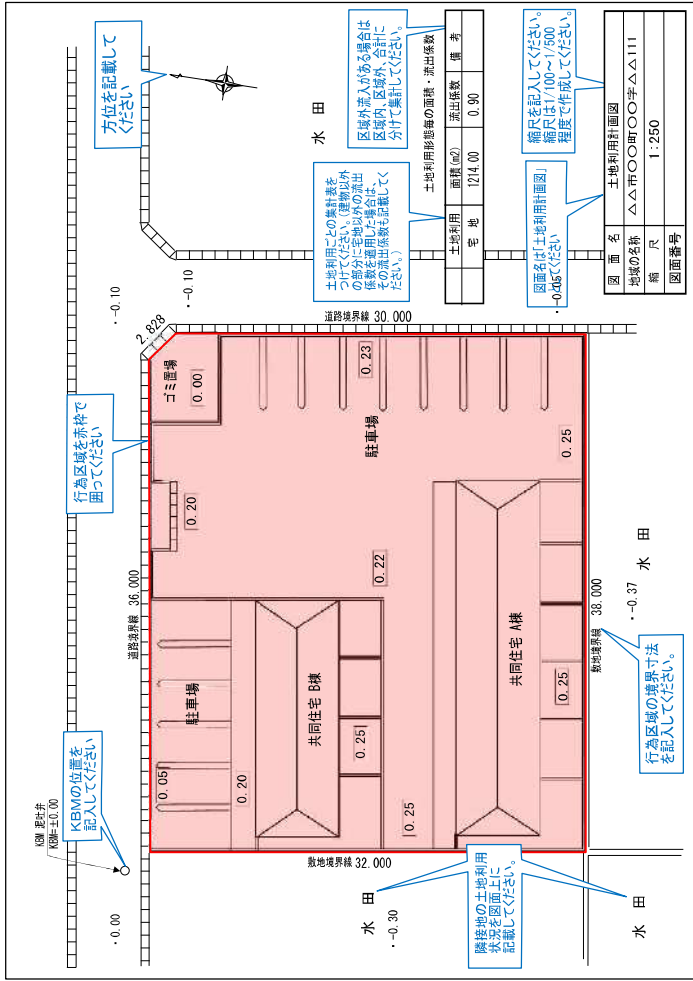
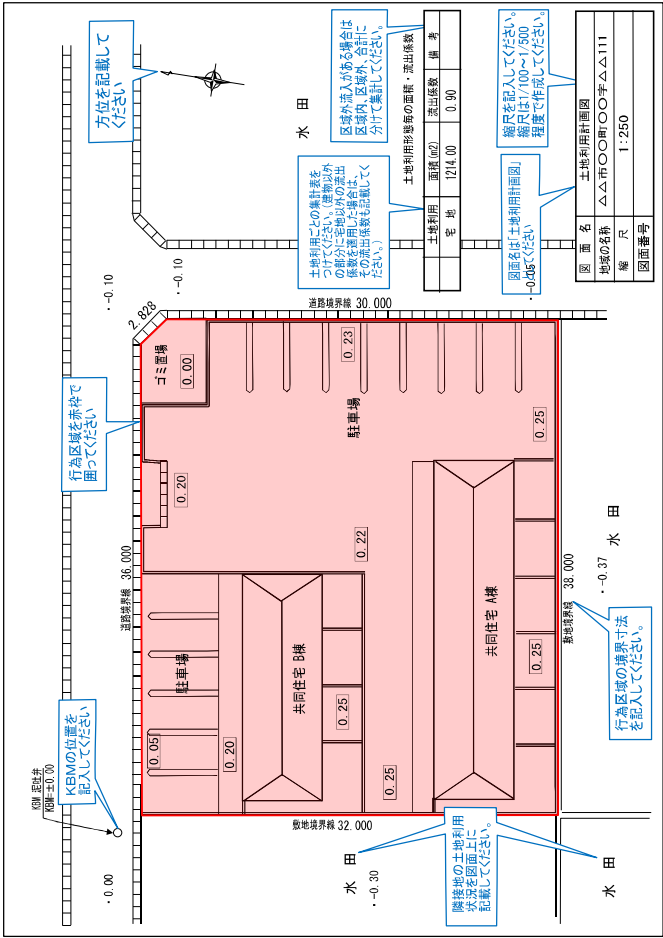
設計資料編
第7章 許可申請図書等の作成事例

(8) 土地利用計画図 (全許可申請)

(8) 土地利用計画図 (全許可申請)

行為後(計画)における行為区域(及び集水区域)の境界並びに流出係数の区分ごとの土地利用形態及び土地利用形態ごとの面積を表示したもの。図面の縮尺は、1/100~1/500程度。土地利用形態ごとの面積は、「計画説明書」と整合すること。

行為後(計画)における行為区域(及び集水区域)の境界並びに流出係数の区分ごとの土地利用形態及び土地利用形態ごとの面積を表示したもの。図面の縮尺は、1/100~1/500程度。土地利用形態ごとの面積は、「計画説明書」と整合すること。



新旧对照表

旧

新

設計資料編

第7章 許可申請図書等の作成事例

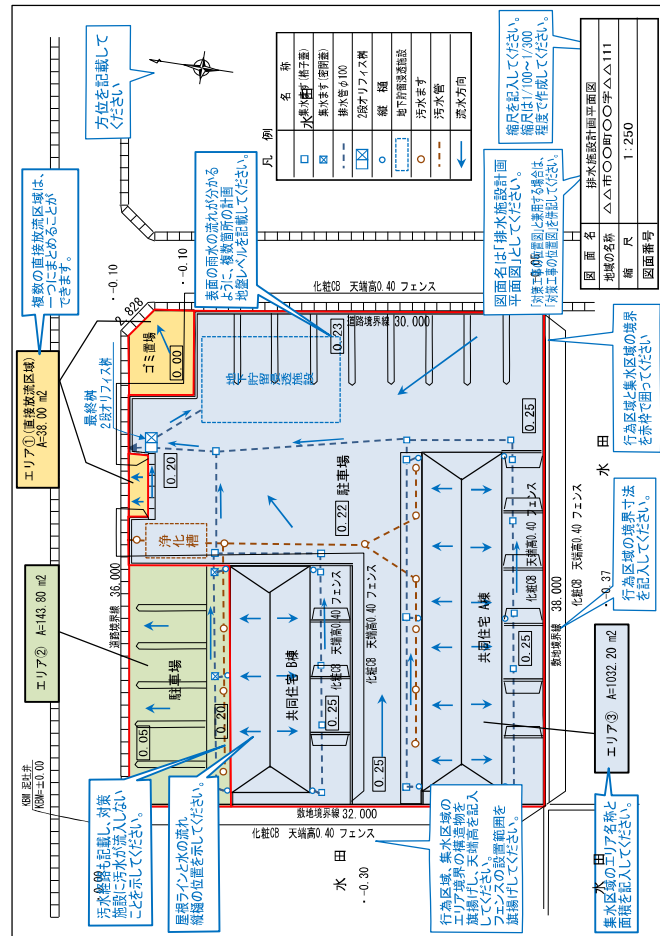
(9) 排水施設計画平面図（全許可申請。対策工事の位置図と兼用可能）

設計資料編

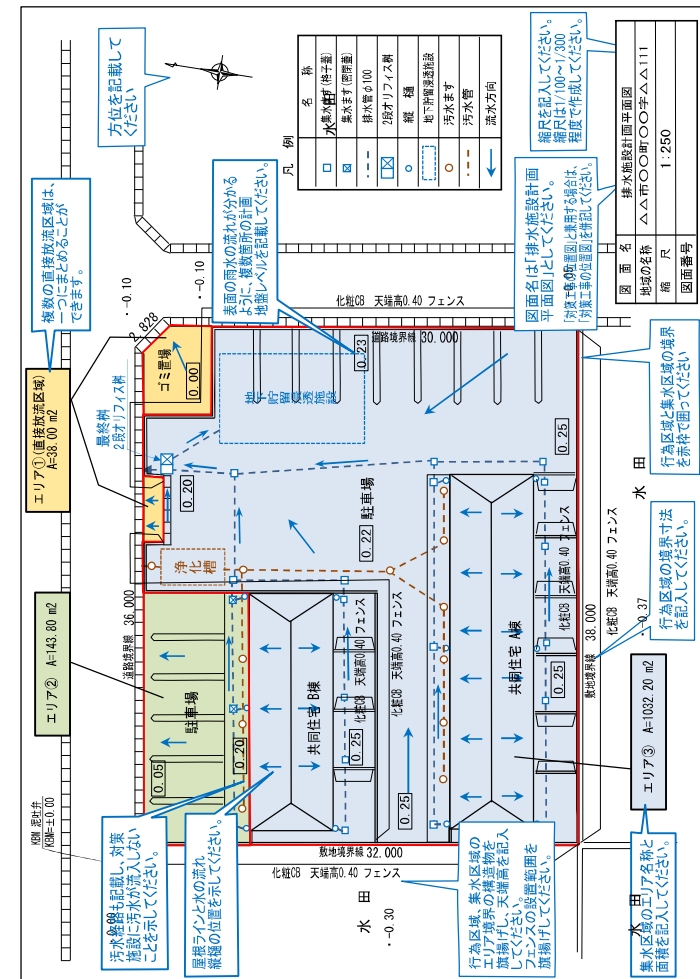
第7章 許可申請図書等の作成事例

(9) 排水施設計画平面図（全許可申請。対策工事の位置図と兼用可能）

排水施設の位置、排水系統、それに伴う集水区域の境界、吐口の位置及び放流先を表示するもの。縮尺 1/100~1/300 程度。雨水の流れが分かるように、流水方向とともに地盤高や集水区域の境界となる構造物の高さを表示すること。

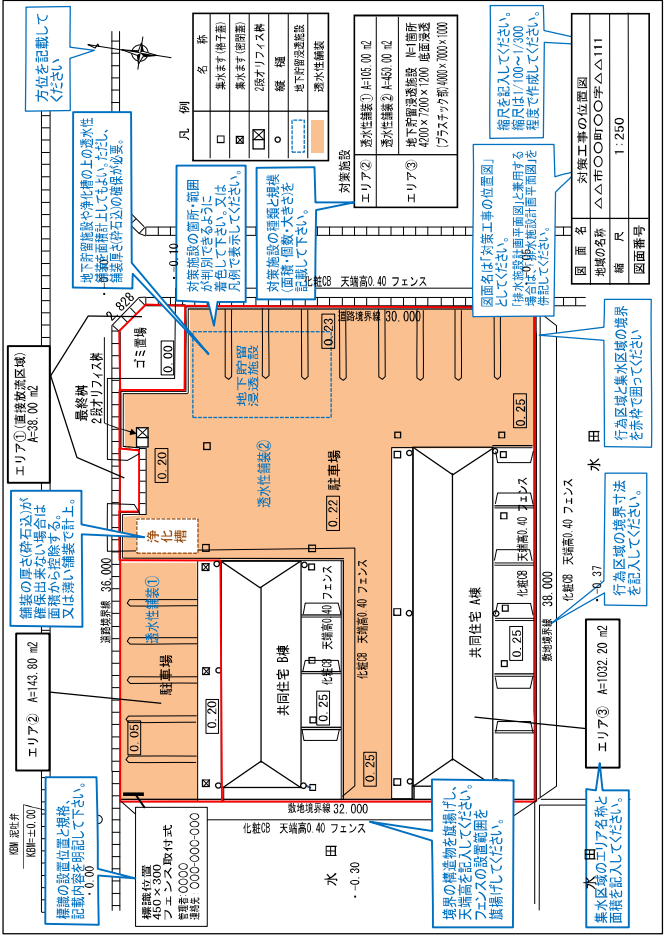


排水施設的位置、排水系統、それに伴う集水区域の境界、吐口の位置及び放流先を表示するもの。縮尺1/100～1/300程度。雨水の流れが分かるように、流水方向とともに地盤高や集水区域の境界となる構造物の高さを表示すること。



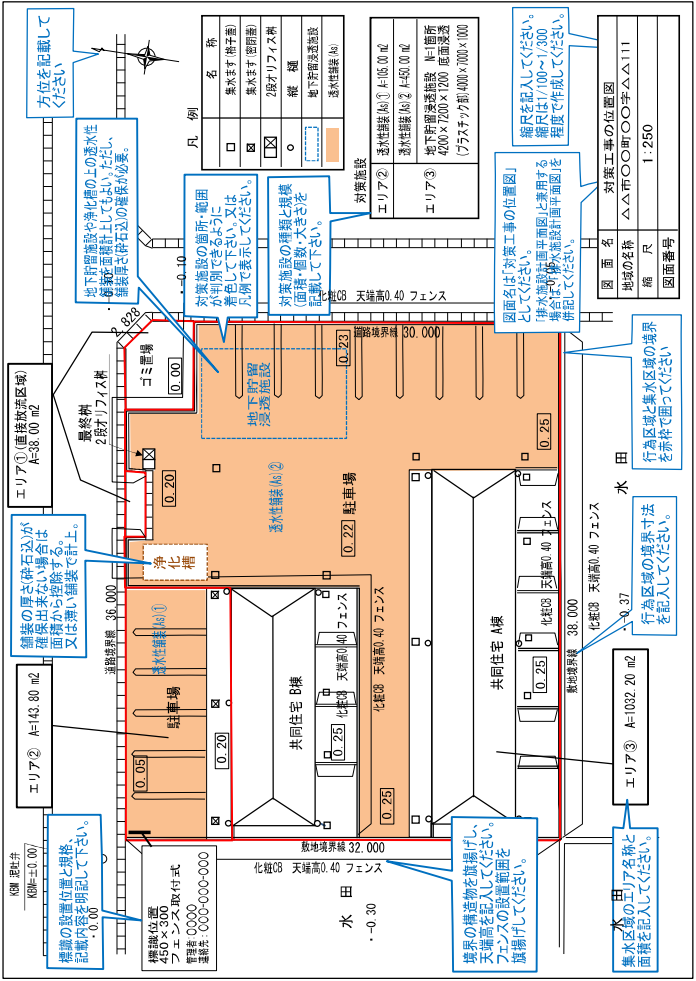
(10) 対策工事の位置図（全許可申請。排水施設計画平面図と兼用可能）

対策施設の位置、規模（複数の同種施設がある場合は集計の式）を表示するもの。
縮尺 1/100～1/300 程度。あわせて県が設置する標識の設置希望位置、標識のタイプ、標識の標記内容を表示すること

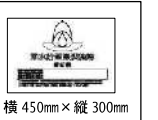
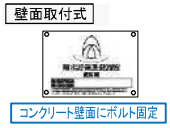
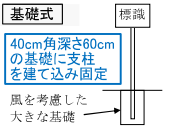


(10) 対策工事の位置図（全許可申請。排水施設計画平面図と兼用可能）

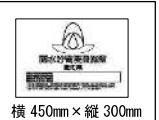
対策施設の位置、規模（複数の同種施設がある場合は集計の式）を表示するもの。
縮尺 1/100～1/300 程度。あわせて県が設置する標識の設置希望位置、標識のタイプ、標識の標記内容を表示すること。



設計資料編
第7章 許可申請図書等の作成事例
＜「対策工事の位置図」への標識の種類及び管理者情報の記載例＞

雨水浸透阻害行為許可の完了検査に合格した場合、雨水貯留浸透施設が存する旨を表示する「標識」を県が設置します。「対策工事の位置図」には、設置希望する「標識の種類」、「設置位置」及び標識に表記される「対策施設の管理者名と連絡先」を記載してください。			
標識の種類			
(大きさ) 600×400、450×300の2種類から選択	 横 600mm×縦 400mm	 横 450mm×縦 300mm	
(設置方法) 右の3種類から選択 基礎式は他の方法が出来ない場合を選択してください。	 フェンスを挟み込んで固定	 コンクリート壁面にボルト固定	 基礎式 40cm角深さ60cmの基礎に支柱を建て込み固定 風を考慮した大きな基礎
対策施設の管理者名と連絡先			
(共同住宅、賃貸住宅を含む一般的な開発工事・公共工事) 管理者名…所有者名では無く管理者名を記入してください。管理を委託する場合は委託先の会社名。 連絡先…管理者の電話番号を記入してください。管理を委託する場合は委託先の電話番号。			
(宅地分譲や個人住宅) ※全ての宅地に各々標識を設置します。 管理者名…「建物所有者」と記入してください。その建物所有者が管理者であるという意味です。 連絡先…「該当住所」と記入して下さい。新しく確定した地番を標識に表示します。 連絡が必要な場合はその住所へ問い合わせるという意味です。			
(宅地分譲等の開発道路に対策施設を設置し、かつ道路を自治体が所有管理する場合) 基本的には、道路敷地等で車の邪魔にならない安全な標識設置場所を確保してください。			
・標識設置場所が確保できる場合 確保した設置場所に標識を設置します。 管理者名…自治体の施設管理者又は管理部署名を記入してください。 連絡先…自治体の管理部署等の電話番号を記入してください。			
・標識設置場所が確保できない場合 全ての宅地の各標識に、道路について併記します。(管理者名・連絡先・対策施設の種類と規模) 併記する道路の表記内容について、併せて記載してください。			
【対策工事の位置図記載例】 標識位置 フェンス取付式 450×300 管理者：建物所有者 連絡先：当該住所 (道路) 管理者：〇〇市都市整備課 連絡先：〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇		【標識への表記例】 施設の容量及び構造の概要 地下貯留浸透施設 V=4 m3 施設の管理者及び連絡先 (管理者)建物所有者(連絡先)〇〇市〇〇町字△△111 (道路)施設の容量及び構造の概要 透水性舗装A=80 m2 (道路)施設の管理者及び連絡先 (管理者)〇〇市都市整備課(連絡先)〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇 標識の設置者及び連絡先 (設置者)愛知県〇〇建設事務所〇〇課(連絡先)〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	

設計資料編
第7章 許可申請図書等の作成事例
＜「対策工事の位置図」への標識の種類及び管理者情報の記載例＞

雨水浸透阻害行為許可の完了検査に合格した場合、雨水貯留浸透施設が存する旨を表示する「標識」を県が設置します。「対策工事の位置図」には、設置希望する「標識の種類」、「設置位置」及び標識に表記される「対策施設の管理者名と連絡先」を記載してください。			
標識の種類			
(大きさ) 600×400、450×300の2種類から選択 概ねA2～A3程度のサイズ	 横 600mm×縦 400mm	 横 450mm×縦 300mm	
(設置方法) 右の3種類から選択 基礎式は他の方法が出来ない場合を選択してください。	 フェンスを挟み込んで固定	 壁面取付式 コンクリート壁面にボルト固定	 基礎式 40cm角深さ60cmの基礎に支柱を建て込み固定 風を考慮した大きな基礎
対策施設の管理者名と連絡先			
(共同住宅、賃貸住宅を含む一般的な開発工事・公共工事) 管理者名…所有者名では無く管理者名を記入してください。管理を委託する場合は委託先の会社名。 連絡先…管理者の電話番号を記入してください。管理を委託する場合は委託先の電話番号。			
(宅地分譲や個人住宅) ※全ての宅地に各々標識を設置します。 管理者名…「建物所有者」と記入してください。その建物所有者が管理者であるという意味です。 連絡先…「当該住所」と記入して下さい。新しく確定した地番を標識に表示します。 連絡が必要な場合はその住所へ問い合わせるという意味です。			
(宅地分譲等の開発道路に対策施設を設置し、かつ道路を自治体が所有管理する場合) 基本的には、道路敷地等で車の邪魔にならない安全な標識設置場所を確保してください。			
・標識設置場所が確保できる場合 確保した設置場所に標識を設置します。 管理者名…自治体の施設管理者又は管理部署名を記入してください。 連絡先…自治体の管理部署等の電話番号を記入してください。			
・標識設置場所が確保できない場合 全ての宅地の各標識に、道路について併記します。(管理者名・連絡先・対策施設の種類と規模) 併記する道路の表記内容について、併せて記載してください。			
【対策工事の位置図記載例】 標識位置 フェンス取付式 450×300 管理者：建物所有者 連絡先：当該住所 (道路) 管理者：〇〇市都市整備課 連絡先：〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇		【標識への表記例】 施設の容量及び構造の概要 地下貯留浸透施設 V=4 m3 施設の管理者及び連絡先 (管理者)建物所有者(連絡先)〇〇市〇〇町字△△111 (道路)施設の容量及び構造の概要 透水性舗装A=80 m2 (道路)施設の管理者及び連絡先 (管理者)〇〇市都市整備課(連絡先)〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇 標識の設置者及び連絡先 (設置者)愛知県〇〇建設事務所〇〇課(連絡先)〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇	

新旧对照表

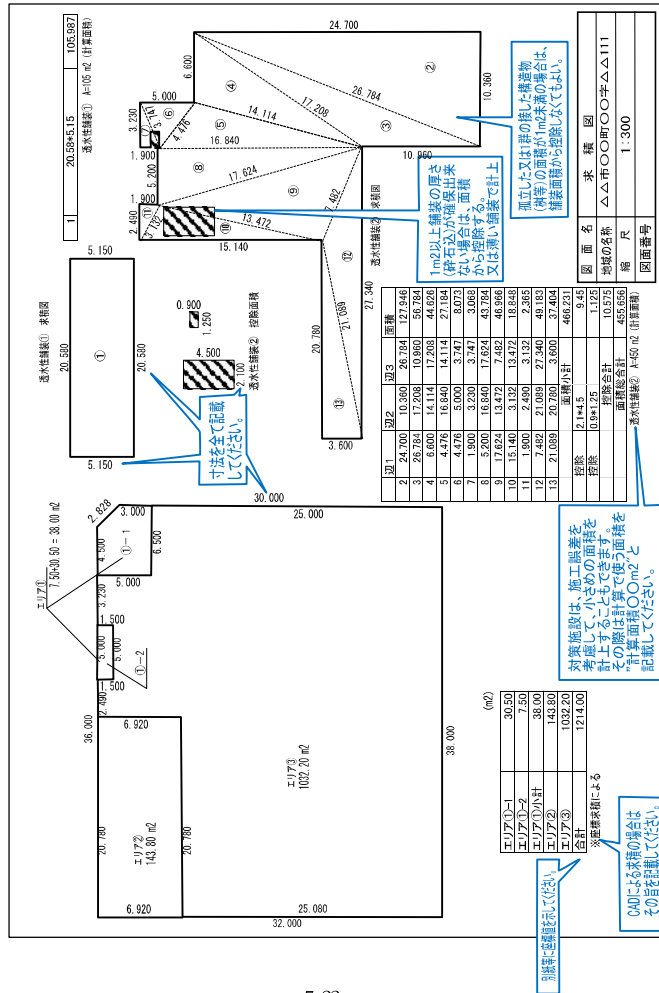
旧

設計資料編

第7章 許可申請図書等の作成事例

(11) 求積図（計画）（必要な場合。複数の集水区域、透水性舗装等がある場合）

行為後における行為区域（及び集水区域）の土地利用形態ごとの面積の算出根拠、及び雨水貯留浸透施設の規模の算出根拠を表示するもの。



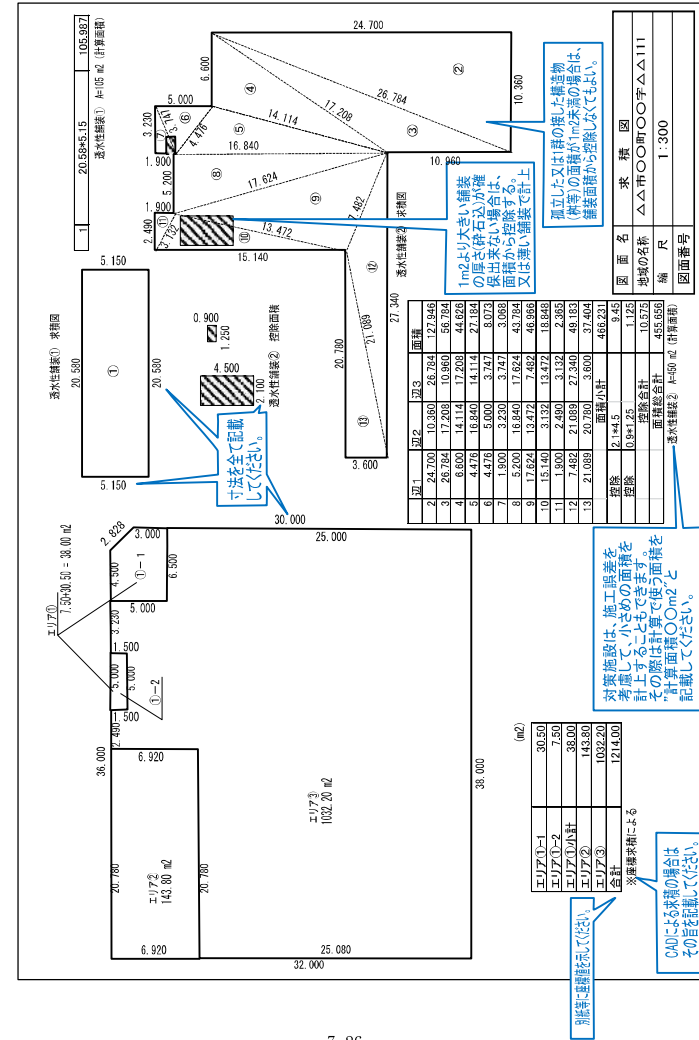
新

設計資料編

第7章 許可申請図書等の作成事例

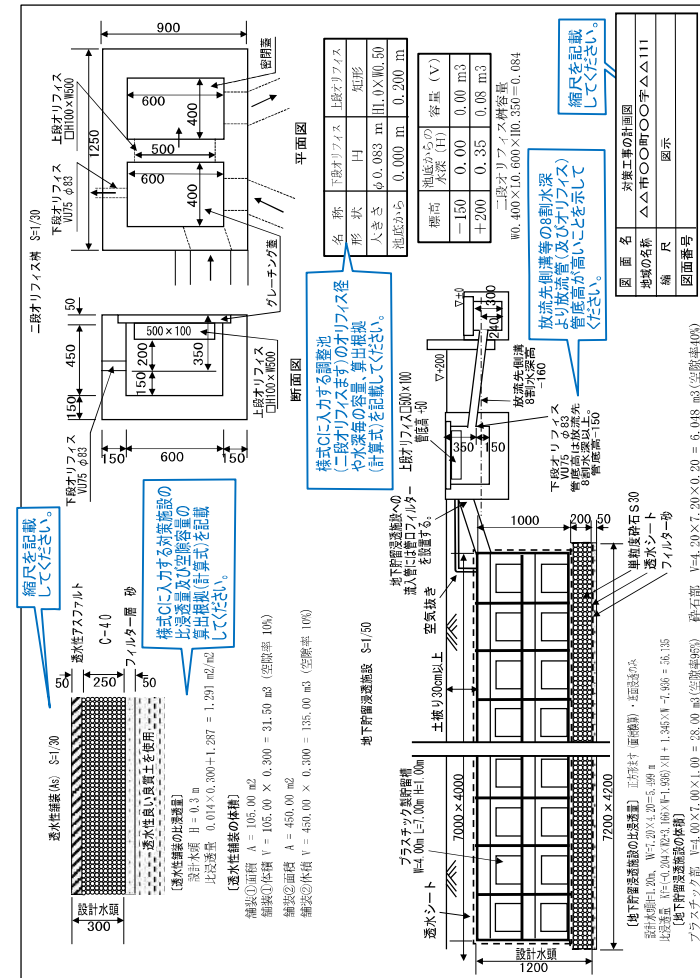
(11) 求積図（計画）（必要な場合。複数の集水区域、透水性舗装等がある場合）

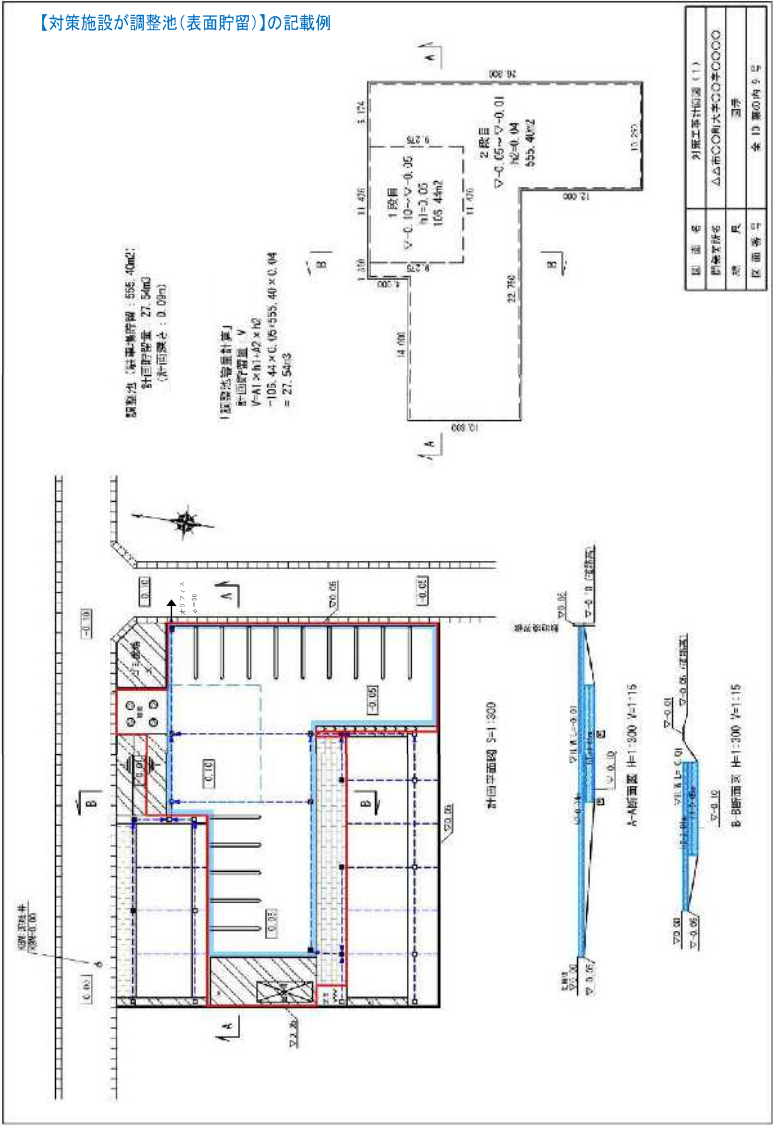
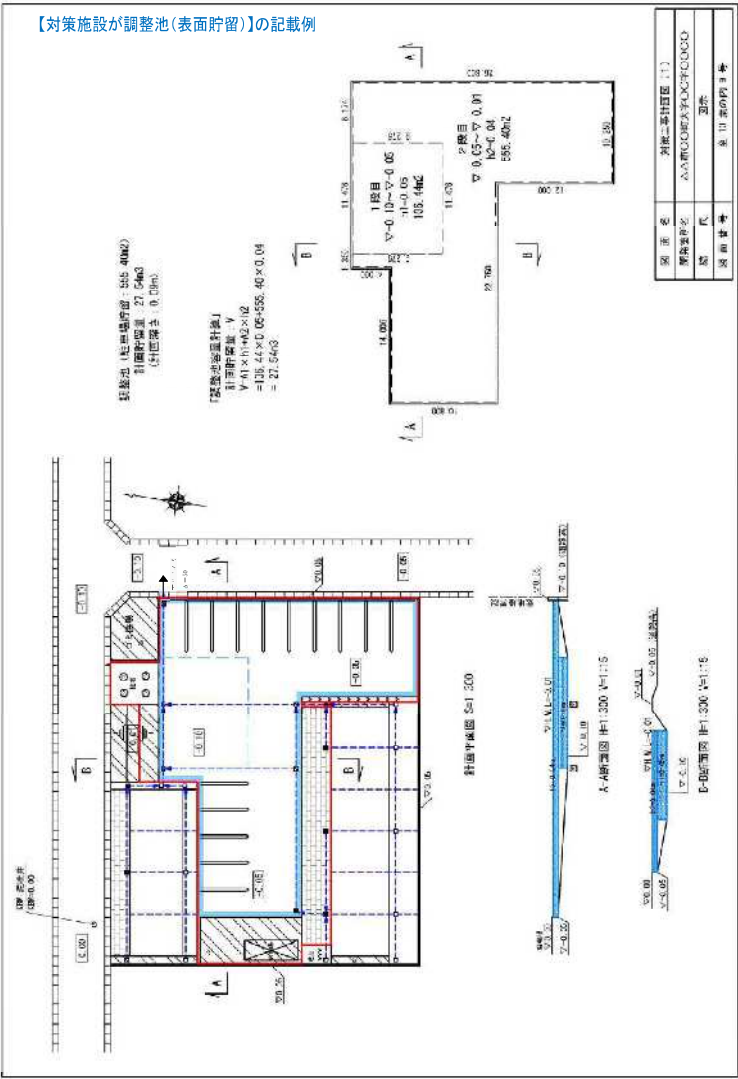
行為後における行為区域（及び集水区域）の土地利用形態ごとの面積の算出根拠、及び雨水貯留浸透施設の規模の算出根拠を表示するもの。



(12) 対策工事の計画図（全許可申請）

雨水貯留浸透施設の構造の詳細を表示したもの。対策施設としての機能（浸透能力、空隙容量）を併せて記載してください。





設計資料編
第7章 許可申請図書等の作成事例
(13) 対策工事の計画が技術基準に適合することを証する書類（全許可申請）
（様式A、様式A'、様式B、様式C、様式D、様式E）

雨水浸透阻害行為面積の算定結果を示したもの（様式A）、及び申請した対策施設の規模が技術基準に適合することを証するもの（様式A'～E）。
作成する数は、全ての申請で、行為区域全体で様式Aが一つ。集水区域全体で様式A'、Bが一つ。集水区域ごとに様式A'～Eを作成する。

【集水区域数と対策施設の種類の様式A～Eを作成する数の例】

	様式A	様式A'	様式B	様式C 浸透	様式C 貯留	様式D youryokeisan	様式E	様式E youryokeisan
集水区域数 1 浸透施設のみ	全体○	全体○	全体○	全体○		全体○		
集水区域数 1 貯留施設のみ	全体○	全体○	全体○		全体○ 自然	全体○	全体○	
集水区域数 1 浸透＋貯留	全体○	全体○	全体○	全体○	全体○ 自然	全体○	全体○	
集水区域数 1 地下貯留施設 ＋排水ポンプ	全体○	全体○	全体○		全体○ ポンプ	全体○	全体○	
集水区域数 1 二段枳フス樹 （地下貯留浸透）	全体○	全体○	全体○		全体○ 二段枳	全体○	全体○	
集水区域数 1 二段枳フス樹 （地下貯留槽 ＋揚水ポンプ）	全体○	全体○	全体○		全体○ 二段枳	全体○	全体○	
集水区域数 2 ①直接放流 ＋②浸透	全体○	全体○ 直放○ ②○	全体○ 直放○ ②○	②○		②○	全体○	
集水区域数 3 ①直接放流 ＋②浸透 ＋③貯留	全体○	全体○ 直放○ ②○ ③○	全体○ 直放○ ②○ ③○	②○	③○ 自然	②○ ③○	直放○ ②○ ③○ 集計表	
集水区域 2 ①浸透 ＋②二段枳フス樹	全体○	全体○ ①○ ②○	全体○ ①○ ②○	②○	③○ 二段枳	②○	③○ 集計表	③○

※様式C…「自然」自然調節方式、「二段枳」二段オリフィス、「ポンプ」ポンプ
※「①②③」…集水区域の番号。エリア①エリア②エリア③
※「直放」…集水区域の内直接放流区域
※「集計表」…集水区域全体の様式Bの行為前流入量と各集水区域の調節後放流量合計（直接放流区域は様式Bの行為後流入量）を示すもの。様式自由

設計資料編
第7章 許可申請図書等の作成事例
(13) 対策工事の計画が技術基準に適合することを証する書類（全許可申請）
（様式A、様式A'、様式B、様式C、様式D、様式E）

雨水浸透阻害行為面積の算定結果を示したもの（様式A）、及び申請した対策施設の規模が技術基準に適合することを証するもの（様式A'～E）。
作成する数は、全ての申請で、行為区域全体で様式Aが一つ。集水区域全体で様式A'、Bが一つ。集水区域ごとに様式A'～Eを作成する。

【集水区域数と対策施設の種類の様式A～Eを作成する数の例】

	様式A	様式A'	様式B	様式C 浸透	様式C 貯留	様式D youryokeisan	様式E	様式E youryokeisan
集水区域数 1 浸透施設のみ	全体○	全体○	全体○	全体○		全体○	全体○	
集水区域数 1 貯留施設のみ	全体○	全体○	全体○		全体○ 自然	全体○	全体○	
集水区域数 1 浸透＋貯留	全体○	全体○	全体○	全体○	全体○ 自然	全体○	全体○	
集水区域数 1 地下貯留施設 ＋排水ポンプ	全体○	全体○	全体○		全体○ ポンプ	全体○	全体○	
集水区域数 1 二段枳フス樹 （地下貯留浸透）	全体○	全体○	全体○		全体○ 二段枳	全体○	全体○	
集水区域数 1 二段枳フス樹 （地下貯留槽 ＋揚水ポンプ）	全体○	全体○	全体○		全体○ 二段枳	全体○	全体○	
集水区域数 2 ①直接放流 ＋②浸透	全体○	全体○ 直放○ ②○	全体○ 直放○ ②○	②○		②○	全体○	
集水区域数 3 ①直接放流 ＋②浸透 ＋③貯留	全体○	全体○ 直放○ ②○ ③○	全体○ 直放○ ②○ ③○	②○	③○ 自然	②○ ③○	直放○ ②○ ③○ 集計表	
集水区域 2 ①浸透 ＋②二段枳フス樹	全体○	全体○ ①○ ②○	全体○ ①○ ②○	②○	②○ 二段枳	②○	②○ 集計表	②○

※様式C…「自然」自然調節方式、「二段枳」二段オリフィス、「ポンプ」ポンプ
※「①②③」…集水区域の番号。エリア①エリア②エリア③
※「直放」…集水区域の内直接放流区域
※「集計表」…集水区域全体の様式Bの行為前流入量と各集水区域の調節後放流量合計（直接放流区域は様式Bの行為後流入量）を示すもの。様式自由

新旧対照表

旧

新

設計資料編
第7章 許可申請図書等の作成事例

(13)・1 土地利用別面積集計表 (様式A)

雨水浸透阻害行為面積を算定することが目的。雨水浸透阻害行為面積が 500m² 以上か。1000 m² 以上かを審査する。1 申請ごとに行為区域全体について 1 種類を作成する。

①現況土地 ②計画土地
上の各枠内のみ入力可能

行為前の土地利用別面積
をm²で入力する

行為後の土地利用別面積
行為前の土地利用から変わった又は
変わらなかった面積をm²で入力する

様式はHPから
ダウンロード

行為前に ■色の欄だった土地
の内、行為後に宅地になる面積

上段 96
中段 156
下段 962

行為前に ■色の欄だった土地
の内、行為後に宅地になる面積

行為前に ■色の欄だった土地
の内、行為後に宅地になる面積

行為前に ■色の欄だった土地
の内、行為後に宅地になる面積

土地利用別面積集計表		エラーチェック		計画土地利用面積(m ²)		雨水浸透阻害行為 の該当面積(m ²)		流出係数		行為前 集水面積 (m ²)		行為後 集水面積 (m ²)	
区分	土地利用の形態の細区分	①現況土地 利用面積(m ²)	②計画土地 利用面積(m ²)	③雨水浸透阻害行為 の該当面積(m ²)	④雨水浸透阻害行為 の該当面積(m ²)	⑤流出係数	⑥流出係数	⑦行為前 集水面積 (m ²)	⑧行為後 集水面積 (m ²)				
第1号 開灌	宅地	56	1118	1118	0.800	0.2096	0.2114						
	市街		0	0	1.000	0.0000	0.0000						
	水路		0	0	1.000	0.0000	0.0000						
	ため池		0	0	1.000	0.0000	0.0000						
	道路 (法面を有しないものに限る。)		0	0	0.800	0.2000	0.2000						
	溝路 (法面を有するもの に限る。)		0	0	0.2000	0.2000							
	特殊溝路 (法面を有するもの に限る。)		0	0	0.2000	0.2000							
	飛行場 (法面を有しないものに限る。)		0	0	0.800	0.2000	0.2000						
	飛行場 (法面を有するもの に限る。)		0	0	0.2000	0.2000							
	飛行場 (法面を有するもの に限る。)		0	0	0.2000	0.2000							
第2号 開灌	コンクリート等の不透水性材料に より舗装された土地 (法面を除く。)		0	0	0.800	0.2000	0.2000						
	コンクリート等の不透水性材料に より覆われた法面		0	0	1.000	0.0000	0.0000						
	ゴルフ場 (雨水を排除するための排水施設 を付与しないに限る。)		0	0	0.800	0.2000	0.2000						
	運動場その他これに類する施設 (雨水を排除するための排水施設 を付与しないに限る。)		0	0	0.800	0.2000	0.2000						
	ローラーその他これに類する施設 機械を用いて耕す目的でない土地	156	0	0	0.800	0.2156	0.2000						
	樹地、耕地、原野、その他ローラー その他これに類する施設機械を 用いて耕す目的でない土地	962	0	0	0.200	0.0962	0.2000						
	合計	1214	1214	1118	0.2374	0.2114							
	合成流出係数					0.294	0.800						

行為区域面積(自動計算)
左右の数字が違つとNG

雨水浸透阻害行為面積
(自動計算)

(13)-1 土地利用別面積集計表 (様式A)

雨水浸透阻害行為面積を算定することが目的。雨水浸透阻害行為面積が 500m² 以上か。1000 m² 以上かを審査する。1 申請ごとに行為区域全体について 1 種類を作成する。

①現況土地 ②計画土地
上の各枠内のみ入力可能

行為前の土地利用別面積
をm²で入力する

行為後の土地利用別面積
行為前の土地利用から変わった又は
変わらなかった面積をm²で入力する

様式はHPから
ダウンロード

行為前に ■色の欄だった土地
の内、行為後に宅地になる面積

上段 96
中段 156
下段 962

行為前に ■色の欄だった土地
の内、行為後に宅地になる面積

行為前に ■色の欄だった土地
の内、行為後に宅地になる面積

行為前に ■色の欄だった土地
の内、行為後に宅地になる面積

土地利用別面積集計表		エラーチェック		計画土地利用面積(m ²)		雨水浸透阻害行為 の該当面積(m ²)		流出係数		行為前 集水面積 (m ²)		行為後 集水面積 (m ²)	
区分	土地利用の形態の細区分	①現況土地 利用面積(m ²)	②計画土地 利用面積(m ²)	③雨水浸透阻害行為 の該当面積(m ²)	④雨水浸透阻害行為 の該当面積(m ²)	⑤流出係数	⑥流出係数	⑦行為前 集水面積 (m ²)	⑧行為後 集水面積 (m ²)				
第1号 開灌	宅地	56	1118	1118	0.800	0.2096	0.2114						
	市街		0	0	1.000	0.0000	0.0000						
	水路		0	0	1.000	0.0000	0.0000						
	ため池		0	0	1.000	0.0000	0.0000						
	道路 (法面を有しないものに限る。)		0	0	0.800	0.2000	0.2000						
	溝路 (法面を有するもの に限る。)		0	0	0.2000	0.2000							
	特殊溝路 (法面を有するもの に限る。)		0	0	0.2000	0.2000							
	飛行場 (法面を有しないものに限る。)		0	0	0.800	0.2000	0.2000						
	飛行場 (法面を有するもの に限る。)		0	0	0.2000	0.2000							
	飛行場 (法面を有するもの に限る。)		0	0	0.2000	0.2000							
第2号 開灌	コンクリート等の不透水性材料に より舗装された土地 (法面を除く。)		0	0	0.800	0.2000	0.2000						
	コンクリート等の不透水性材料に より覆われた法面		0	0	1.000	0.0000	0.0000						
	ゴルフ場 (雨水を排除するための排水施設 を付与しないに限る。)		0	0	0.800	0.2000	0.2000						
	運動場その他これに類する施設 (雨水を排除するための排水施設 を付与しないに限る。)		0	0	0.800	0.2000	0.2000						
	ローラーその他これに類する施設 機械を用いて耕す目的でない土地	156	0	0	0.800	0.2156	0.2000						
	樹地、耕地、原野、その他ローラー その他これに類する施設機械を 用いて耕す目的でない土地	962	0	0	0.200	0.0962	0.2000						
	合計	1214	1214	1118	0.2374	0.2114							
	合成流出係数					0.294	0.800						

行為区域面積(自動計算)
左右の数字が違つとNG

雨水浸透阻害行為面積
(自動計算)

(13)・2 集水区域の概要(様式A)

(区域外流入がある場合区域外を含めた) 集水区域の行為前後の土地利用別面積を示す。
集水区域全体と各集水区域についてそれぞれ作成する。「集水区域全体」の行為前後の土地利用別面積と合成流出係数の数値は、計画説明書に記載する数値である。

様式名「様式A」と集水区域の
エリア名(全体)を記入。

様式は「調整池容量計算システム」
で作成。

様式名「様式A」と集水区域の
エリア名を記入。

行為区域全体
について記入

行為区域全体
について記入

1. 行為区域の概要

1. 行為区域の概要

(※位置及び行為前後の土地利用区分がわかる平面図を添付すること)

行為区域位置 住所 〇〇市〇〇区〇〇町

行為面積

0.1214 (ha)

行為前後の土地利用区分

0.1214 (ha)

【集水区域全体例】

【各集水区域例】

区分	土地利用の形態の細区分	流出係数	行為前面積 (ha)	行為後面積 (ha)
第1 地 区 第1 地 区 第1 地 区	宅地	0.90	0.0096	0.1214
	道路	1.00		
	水路	1.00		
	ため池	1.00		
	道路(法面を有しないもの)	0.90		
	道路(法面を有するもの)			
	鉄道線路(法面を有しないもの)	0.90		
	鉄道線路(法面を有するもの)			
	飛行場(法面を有しないもの)	0.90		
	飛行場(法面を有するもの)			
第2 地 区 第2 地 区 第2 地 区	不透水性材料により舗装された土地(法面を除く)	0.95		
	不透水性材料により覆われた法面(法面を除く)	1.00		
	ゴルフ場(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.50		
	運動場その他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.80		
	ローラーその他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.50	0.0156	
	山地	0.30		
	人工的に造成され植生に覆われた土地	0.40		
	林地、草地、農地その他ローラーその他これに類する施設機械を用いて耕種目的でない土地	0.20	0.0982	
	水面			
	その他			
面積計			0.1214	0.1214
合成流出係数			0.294	0.900

「合成流出係数」
と記入する

集水区域の面積
を記入する

区分	土地利用の形態の細区分	流出係数	行為前面積 (ha)	行為後面積 (ha)
第1 地 区 第1 地 区 第1 地 区	宅地	0.90	0.0096	0.1032
	道路	1.00		
	水路	1.00		
	ため池	1.00		
	道路(法面を有しないもの)	0.90		
	道路(法面を有するもの)			
	鉄道線路(法面を有しないもの)	0.90		
	鉄道線路(法面を有するもの)			
	飛行場(法面を有しないもの)	0.90		
	飛行場(法面を有するもの)			
第2 地 区 第2 地 区 第2 地 区	不透水性材料により舗装された土地(法面を除く)	0.95		
	不透水性材料により覆われた法面(法面を除く)	1.00		
	ゴルフ場(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.50		
	運動場その他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.80		
	ローラーその他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.50		
	山地	0.30		
	人工的に造成され植生に覆われた土地	0.40		
	林地、草地、農地その他ローラーその他これに類する施設機械を用いて耕種目的でない土地	0.20		
	水面			
	その他			
面積計			0.1032	0.1032
合成流出係数			0.294	0.900

(13)・2 集水区域の概要(様式A)

(区域外流入がある場合区域外を含めた) 集水区域の行為前後の土地利用別面積を示す。
集水区域全体と各集水区域についてそれぞれ作成する。「集水区域全体」の行為前後の土地利用別面積と合成流出係数の数値は、計画説明書に記載する数値である。

様式名「様式A」と集水区域のエリア名(全体)を記入。

様式は「調整池容量計算システム」で作成。

様式名「様式A」と集水区域のエリア名を記入。

行為区域全体について記入

行為区域全体について記入

1. 行為区域の概要

1. 行為区域の概要

(※位置及び行為前後の土地利用区分がわかる平面図を添付すること)

(※位置及び行為前後の土地利用区分がわかる平面図を添付すること)

行為区域位置 住所 〇〇市〇〇区〇〇町

行為区域位置 住所 〇〇市〇〇区〇〇町

行為面積 0.0000 (ha) 【集水区域全体例】

行為面積 0.0000 (ha) 【各集水区域例】

行為前後の土地利用区分

行為前後の土地利用区分

区分	土地利用の形態の細区分	流出係数	行為前面積 (ha)	行為後面積 (ha)
第1 地 区	宅地	0.90	0.0096	0.1032
	道路	1.00		
	水路	1.00		
	ため池	1.00		
	道路(法面を有しないもの)	0.90		
	道路(法面を有するもの)			
	鉄道線路(法面を有しないもの)	0.90		
	鉄道線路(法面を有するもの)			
	飛行場(法面を有しないもの)	0.90		
	飛行場(法面を有するもの)			
第2 地 区	不透水性材料により舗装された土地(法面を除く)	0.95		
	不透水性材料により覆われた法面(法面を除く)	1.00		
	ゴルフ場(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.50		
	運動場その他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.80		
	ローラーその他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.50	0.0156	
	山地	0.30		
	人工的に造成され植生に覆われた土地	0.40		
	林地、草地、農地その他ローラーその他これに類する施設機械を用いて耕種目的でない土地	0.20	0.0982	
	水面			
	その他			
面積計		0.1214	0.1214	
平均流出係数		0.294	0.900	

区分	土地利用の形態の細区分	流出係数	行為前面積 (ha)	行為後面積 (ha)
第1 地 区	宅地	0.90	0.01032	0.1032
	道路	1.00		
	水路	1.00		
	ため池	1.00		
	道路(法面を有しないもの)	0.90		
	道路(法面を有するもの)			
	鉄道線路(法面を有しないもの)	0.90		
	鉄道線路(法面を有するもの)			
	飛行場(法面を有しないもの)	0.90		
	飛行場(法面を有するもの)			
第2 地 区	不透水性材料により舗装された土地(法面を除く)	0.95		
	不透水性材料により覆われた法面(法面を除く)	1.00		
	ゴルフ場(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.50		
	運動場その他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.80		
	ローラーその他これに類する施設(雨水を排除するための排水施設を有するものに限る)	0.50	0.0156	
	山地	0.30		
	人工的に造成され植生に覆われた土地	0.40		
	林地、草地、農地その他ローラーその他これに類する施設機械を用いて耕種目的でない土地	0.20	0.0982	
	水面			
	その他			
面積計		0.2150	0.1032	
平均流出係数		0.285	0.900	

「合成流出係数」を記入する

集水区域の面積を記入する

様式A(全体)の行為前後の土地利用別面積を「計画説明書」に記載する。

様式A(全体)の行為前後の「平均流出係数」を「計画説明書」に記載する。

各集水区域の行為前の入力値は集水区域全体の平均流出係数の値を使用すれば良い。

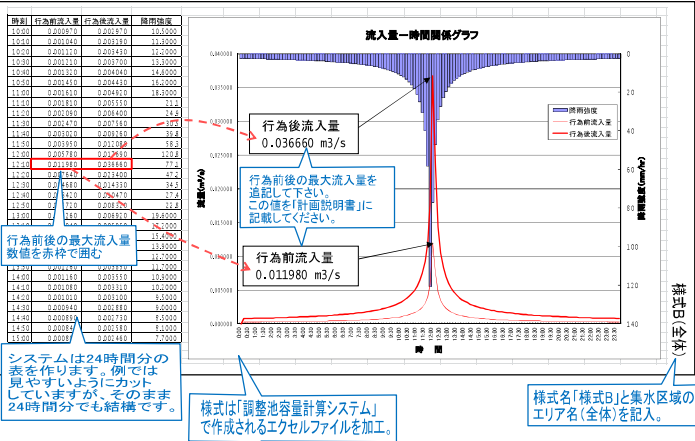
(13)・3 雨水浸透阻害行為前後の雨水流出量(様式B)

様式A'の行為前後の土地利用別面積に基準降雨が降った時、集水区域から流出する雨量を示す。集水区域全体と各集水区域についてそれぞれ作成する。「集水区域全体」の行為前後の流出雨水量の数値は、計画説明書に記載する数値である。

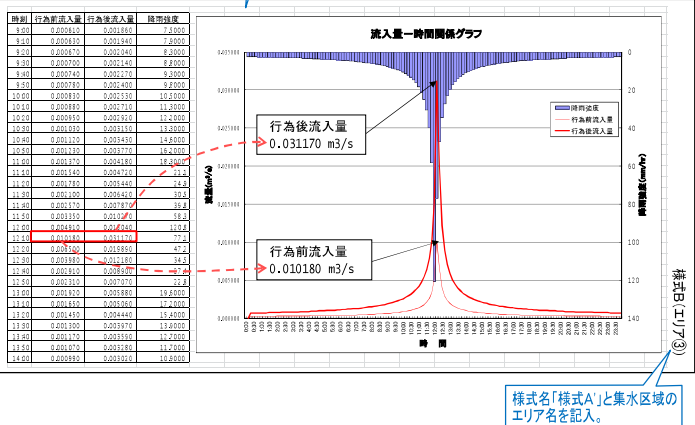
(13)・3 雨水浸透阻害行為前後の雨水流出量(様式B)

様式A'の行為前後の土地利用別面積に基準降雨が降った時、集水区域から流出する雨量を示す。集水区域全体と各集水区域についてそれぞれ作成する。「集水区域全体」の行為前後の流出雨水量の数値は、計画説明書に記載する数値である。

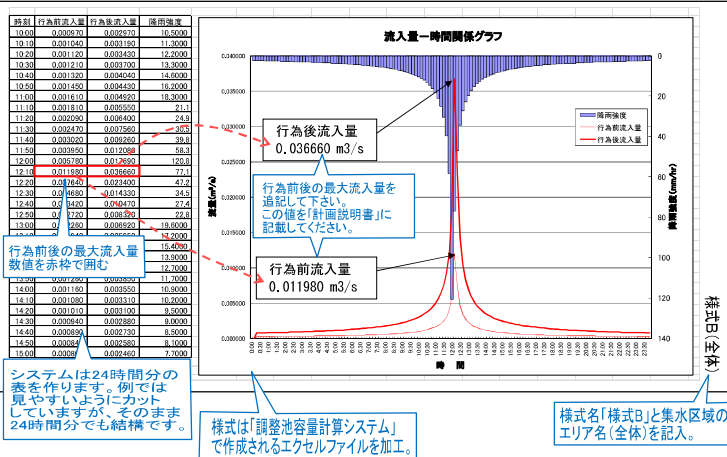
【集水区域全体例】



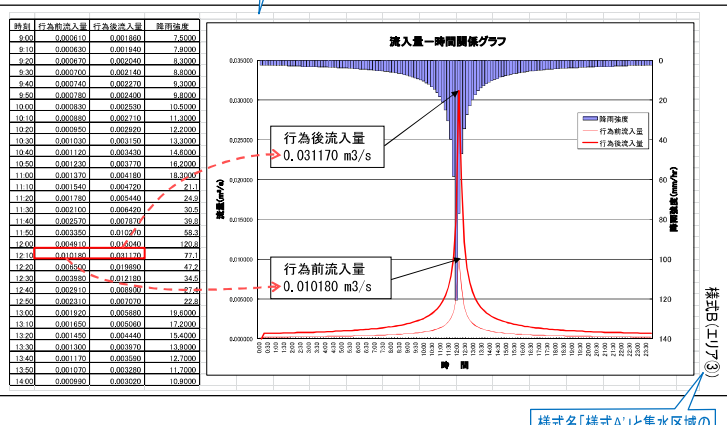
【各集水区域例】



【集水区域全体例】



【各集水区域例】



(13)・4 施設の規模(様式C 浸透)

対策施設として浸透施設がある場合作成する。一つの集水区域の内にいる全ての浸透施設の数量と浸透能力及び空隙容量を示す。
ただし、二段オフィスの上段オフィスにつながる地下貯留浸透施設等は除く。
(別途「様式 E youryokeisan」により示す。)

様式は「調整池容量計算システム」で作成。

下表の全浸透施設の浸透能力の合計値が自動計算される。

下表の全浸透施設の空隙(スキマ)の貯留容量合計値が自動計算される。

様式名「様式C」と集水区域のエリア名を記入。

この列には数値を入力しない。

3. 流出抑制施設諸元									
浸透施設諸元		浸透能力 0.002179 m ³ /s							
浸透能力		空隙貯留容量諸元							
浸透能力		空隙貯留容量 13,500 m ³ /s							
【浸透マス】		単位設計浸透能力(m ³ /hr・m ²)			設置数量(個)			影響係数	
比浸透量(m ³ /hr)	飽和透水係数(m/hr)	(1)	(2)	(3)	内径(1)	内径(2)	内径(3)	体積(m ³)	空隙率(%)
1	2.00	0.00	0.00	1.00	2.00	0.00	0.00	1	1.00
2	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	2	1.00
3	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	3	1.00
4	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	4	1.00
5	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	5	1.00
6	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	6	1.00
7	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	7	1.00
8	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	8	1.00
9	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	9	1.00
10	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	10	1.00
1個あたりの比浸透量を計算し入力									
新川流域0.03 境川流域0.01									
0.9目詰まりの影響									
0.9地下水の影響									
体積入力									
空隙率入力									
浸透マスや地下貯留浸透施設を記入する									
1mあたりの比浸透量を計算し入力									
新川流域0.03 境川流域0.01									
設置延長入力									
0.9目詰まりの影響									
0.9地下水の影響									
体積入力									
空隙率入力									
浸透トレンチや浸透側溝を記入する									
1m2あたりの比浸透量を計算し入力									
新川流域0.03 境川流域0.01									
面積入力									
0.5目詰まりの影響									
0.9地下水の影響									
体積入力									
空隙率入力									
透水性舗装(As・砕石・ブロック・Co)を記入する									
10									
【その他】									
単位設計浸透能力(m ³ /hr・m ²)		設置数量(個)			影響係数			体積(m ³)	
比浸透量(m ³ /hr)	飽和透水係数(m/hr)	(1)	(2)	(3)	内径(1)	内径(2)	内径(3)	体積(m ³)	空隙率(%)
1	2.00	0.00	0.00	1.00	2.00	0.00	0.00	1	1.00
2	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	2	1.00
3	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	3	1.00
4	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	4	1.00
5	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	5	1.00
6	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	6	1.00
7	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	7	1.00
8	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	8	1.00
9	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	9	1.00
10	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	10	1.00
その他浸透機能を有する対策施設を記入する。									

(13)・4 施設の規模(様式C 浸透)

対策施設として浸透施設がある場合作成する。一つの集水区域の内にいる全ての浸透施設の数量と浸透能力及び空隙容量を示す。
ただし、二段オフィスの上段オフィスにつながる地下貯留浸透施設等は除く。
(別途「様式 E youryokeisan」により示す。)

様式は「調整池容量計算システム」で作成。

下表の全浸透施設の浸透能力の合計値が自動計算される。

下表の全浸透施設の空隙(スキマ)の貯留容量合計値が自動計算される。

様式名「様式C」と集水区域のエリア名を記入。

この列には数値を入力しない。

3. 流出抑制施設諸元									
浸透施設諸元		浸透能力 0.002179 m ³ /s							
浸透能力		空隙貯留容量諸元							
浸透能力		空隙貯留容量 13,500 m ³ /s							
【浸透マス】		単位設計浸透能力(m ³ /hr・m ²)			設置数量(個)			影響係数	
比浸透量(m ³ /hr)	飽和透水係数(m/hr)	(1)	(2)	(3)	内径(1)	内径(2)	内径(3)	体積(m ³)	空隙率(%)
1	2.00	0.00	0.00	1.00	2.00	0.00	0.00	1	1.00
2	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	2	1.00
3	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	3	1.00
4	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	4	1.00
5	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	5	1.00
6	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	6	1.00
7	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	7	1.00
8	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	8	1.00
9	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	9	1.00
10	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	10	1.00
1個あたりの比浸透量を計算し入力									
新川流域0.03 境川流域0.01									
0.9目詰まりの影響									
0.9地下水の影響									
体積入力									
空隙率入力									
浸透マスや地下貯留浸透施設を記入する									
1mあたりの比浸透量を計算し入力									
新川流域0.03 境川流域0.01									
設置延長入力									
0.9目詰まりの影響									
0.9地下水の影響									
体積入力									
空隙率入力									
浸透トレンチや浸透側溝を記入する									
1m2あたりの比浸透量を計算し入力									
新川流域0.03 境川流域0.01									
面積入力									
0.5目詰まりの影響									
0.9地下水の影響									
体積入力									
空隙率入力									
透水性舗装(As・砕石・ブロック・Co)を記入する									
10									
【その他】									
単位設計浸透能力(m ³ /hr・m ²)		設置数量(個)			影響係数			体積(m ³)	
比浸透量(m ³ /hr)	飽和透水係数(m/hr)	(1)	(2)	(3)	内径(1)	内径(2)	内径(3)	体積(m ³)	空隙率(%)
1	2.00	0.00	0.00	1.00	2.00	0.00	0.00	1	1.00
2	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	2	1.00
3	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	3	1.00
4	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	4	1.00
5	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	5	1.00
6	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	6	1.00
7	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	7	1.00
8	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	8	1.00
9	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	9	1.00
10	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	10	1.00
その他浸透機能を有する対策施設を記入する。									

(13)・5 施設の規模(様式C 貯留)

貯留施設の形状(水位ー容量)、オリフィス、ポンプ能力を示す。
システムで「調節計算(自然調節方式)」「調節計算(2段)」「調節計算(ポンプ)」を用いて計算した場合にシステムを使用し作成する。

(13)・5 施設の規模(様式C 貯留)

貯留施設の形状(水位ー容量)、オリフィス、ポンプ能力を示す。
システムで「調節計算(自然調節方式)」「調節計算(2段)」「調節計算(ポンプ)」を用いて計算した場合にシステムを使用し作成する。

【調節計算(自然調節方式)】

様式名「様式C」と集水区域のエリア名を記入。

様式C(エリア②)

3. 流出抑制施設諸元
(※流出抑制施設の配置位置(平面図)、構造諸元のわかる図面を添付すること)
調整池諸元
放流口径(2段オリフィスの場合は、上・下段の諸諸元を記載)

放流口形状	下段		上段(2段オリフィスの場合)	
	形状	円	形状	円
放流口形状	円	0.075	形状	円
管底位置(池底から)	—	—	管底位置(池底から)	—

通常はオリフィス管底高を調整池の池底とする。

通常は「0.000」と記入。調整池底面に浸透施設がない場合は、「0.000」

オリフィスが1つの調整池

下段と上段オリフィスの管底位置の差

二段オリフィス樹や2つオリフィスのある(洪水吐がある)調整池

【調節計算(2段)】

様式C(エリア②)

3. 流出抑制施設諸元
(※流出抑制施設の配置位置(平面図)、構造諸元のわかる図面を添付すること)
調整池諸元
放流口径(2段オリフィスの場合は、上・下段の諸諸元を記載)

放流口形状	下段		上段(2段オリフィスの場合)	
	形状	円	形状	円
放流口形状	円	0.075	形状	円
管底位置(池底から)	—	—	管底位置(池底から)	—

通常は下段オリフィス管底位置「0.000」

下段と上段オリフィスの管底位置の差

二段オリフィス樹や2つオリフィスのある(洪水吐がある)調整池

【調節計算(ポンプ)】

様式C(エリア②)

3. 流出抑制施設諸元(ポンプ排水)
(※流出抑制施設の配置位置(平面図)、構造諸元のわかる図面を添付すること)
調整池諸元
放流口径(2段オリフィスの場合は、上・下段の諸諸元を記載)

放流口形状	下段		上段(2段オリフィスの場合)	
	形状	円	形状	円
放流口形状	円	0.075	形状	円
管底位置(池底から)	—	—	管底位置(池底から)	—

調整池の形状(水深ー容量)

区域外へのポンプ排水量(m³/s)

ポンプの操作規則(水位ー排水量)

【調節計算(自然調節方式)】

様式名「様式C」と集水区域のエリア名を記入。

様式C(エリア②)

3. 流出抑制施設諸元
(※流出抑制施設の配置位置(平面図)、構造諸元のわかる図面を添付すること)
調整池諸元
放流口径(2段オリフィスの場合は、上・下段の諸諸元を記載)

放流口形状	下段		上段(2段オリフィスの場合)	
	形状	円	形状	円
放流口形状	円	0.075	形状	円
管底位置(池底から)	—	—	管底位置(池底から)	—

通常はオリフィス管底高を調整池の池底とする。

通常は「0.000」と記入。調整池底面に浸透施設がない場合は、「0.000」

オリフィスが1つの調整池

下段と上段オリフィスの管底位置の差

二段オリフィス樹や2つオリフィスのある(洪水吐がある)調整池

【調節計算(2段)】

様式C(エリア②)

3. 流出抑制施設諸元
(※流出抑制施設の配置位置(平面図)、構造諸元のわかる図面を添付すること)
調整池諸元
放流口径(2段オリフィスの場合は、上・下段の諸諸元を記載)

放流口形状	下段		上段(2段オリフィスの場合)	
	形状	円	形状	円
放流口形状	円	0.075	形状	円
管底位置(池底から)	—	—	管底位置(池底から)	—

通常は下段オリフィス管底位置「0.000」

下段と上段オリフィスの管底位置の差

二段オリフィス樹や2つオリフィスのある(洪水吐がある)調整池

【調節計算(ポンプ)】

様式C(エリア②)

3. 流出抑制施設諸元(ポンプ排水)
(※流出抑制施設の配置位置(平面図)、構造諸元のわかる図面を添付すること)
調整池諸元
放流口径(2段オリフィスの場合は、上・下段の諸諸元を記載)

放流口形状	下段		上段(2段オリフィスの場合)	
	形状	円	形状	円
放流口形状	円	0.075	形状	円
管底位置(池底から)	—	—	管底位置(池底から)	—

調整池の形状(水深ー容量)

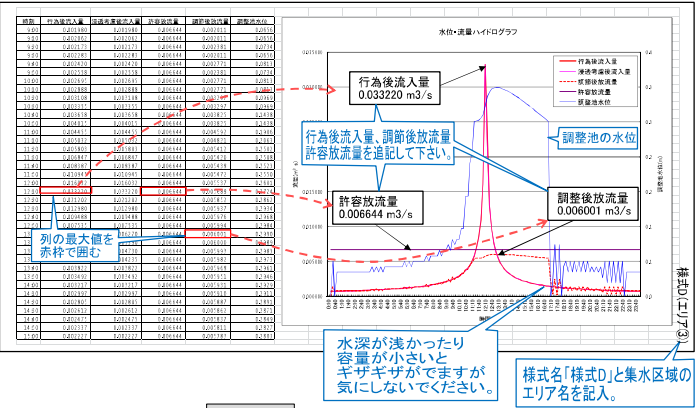
区域外へのポンプ排水量(m³/s)

ポンプの操作規則(水位ー排水量)

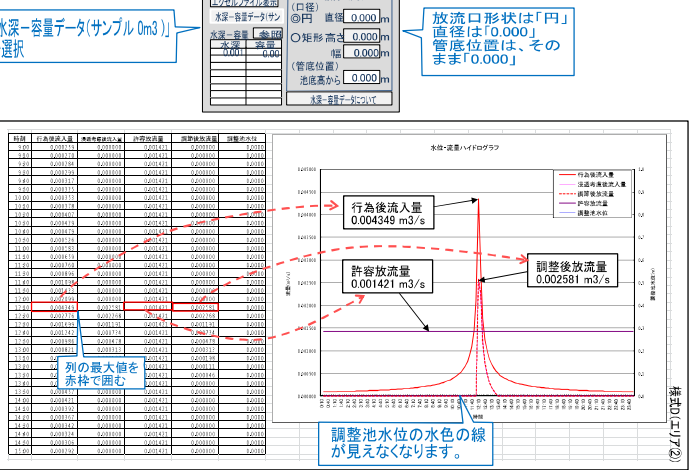
(13)・6 調整池容量計算結果(様式D)

区域外を含む集水区域ごとに作成した浸透施設及び貯留施設の対策後放流量の計算結果をシステムを使用し作成。貯留施設がない場合も作成する。
ただし、二段オリフィス樹の場合は除く。(「様式D youryokei san」による。)
行為後と対策後の10分ごとの流出雨量の計算結果と許容放流量を表示したもの。

【貯留施設ありの例】



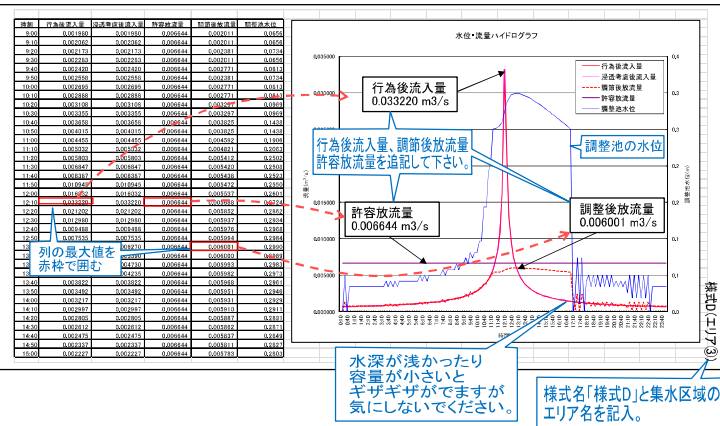
【浸透施設のための例】



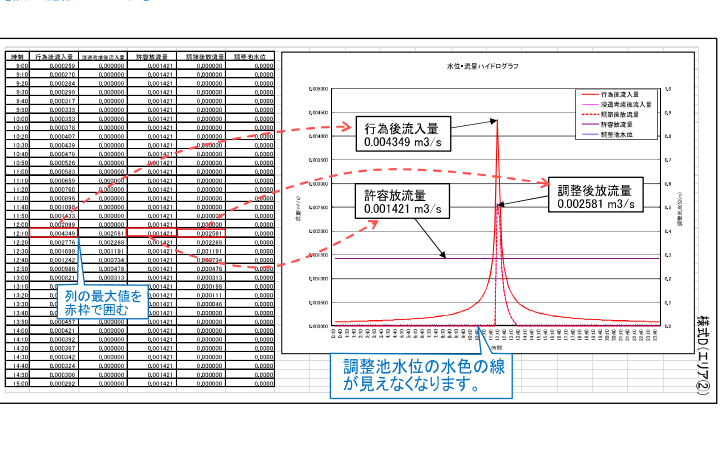
(13)・6 調整池容量計算結果(様式D)

区域外を含む集水区域ごとに作成した浸透施設及び貯留施設の対策後放流量の計算結果をシステムを使用し作成。貯留施設がない場合も作成する。
ただし、二段オリフィス樹の場合は除く。(「様式D youryokeisan」による。)
行為後と対策後の10分ごとの流出雨量の計算結果と許容放流量を表示したもの。

【貯留施設ありの例】



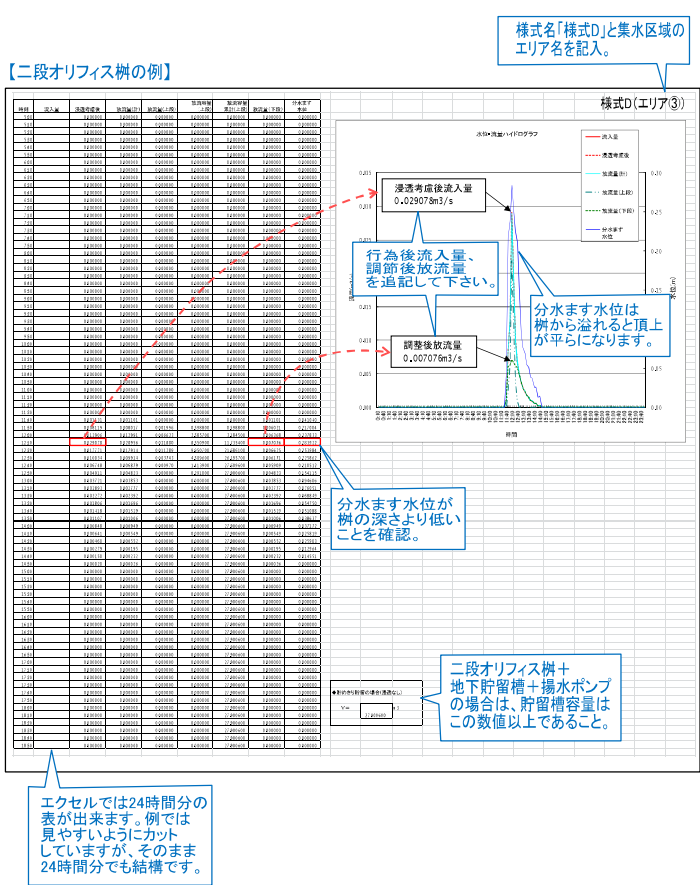
【浸透施設のための例】



(13)・7 調整池容量計算結果(様式D youryokei san)

二段オリフィス樹を使用した場合の下段オリフィスからの放流量と樹から溢れないことを示す。HPからダウンロードしたエクセルファイル「youryokei san」により作成する。

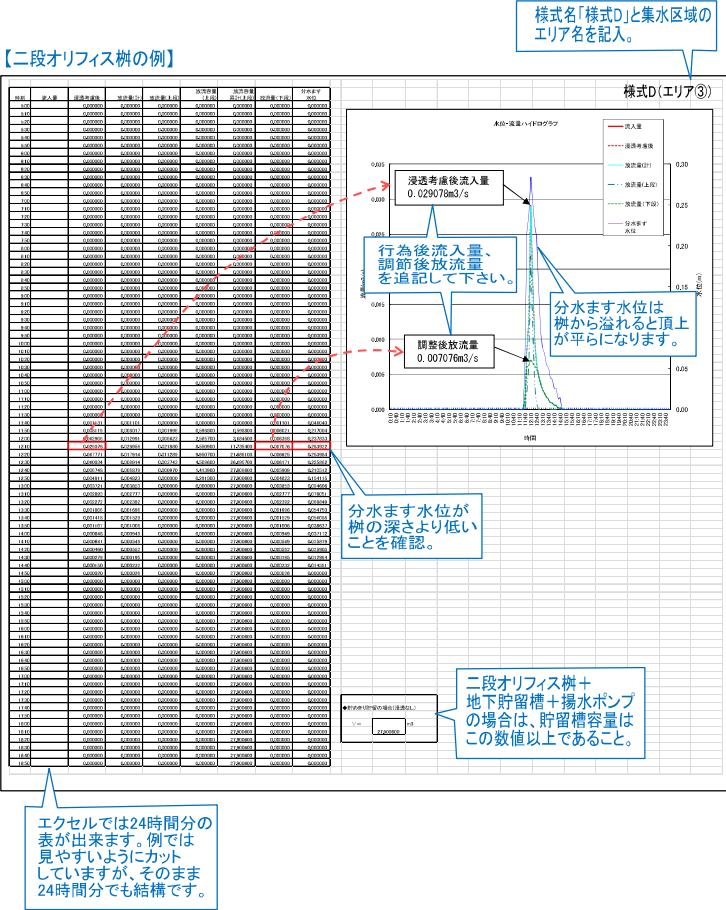
二段オリフィスと地下貯留槽と揚水ポンプの組み合わせの場合は、上段オリフィスから地下貯留槽への流入量の合計も示します。



(13)-7 調整池容量計算結果(様式D youryokei san)

二段オリフィス樹を使用した場合の下段オリフィスからの放流量と樹から溢れないことを示す。HPからダウンロードしたエクセルファイル「youryokei san」により作成する。

二段オリフィスと地下貯留槽と揚水ポンプの組み合わせの場合は、上段オリフィスから地下貯留槽への流入量の合計も示します。



新旧対照表

旧

新

設計資料編
第7章 許可申請図書等の作成事例

設計資料編
第7章 許可申請図書等の作成事例

(13)・8 施設チェックシート(様式E)

(13)-8 施設チェックシート(様式E)

計算結果を簡易に確認するチェックシート。集水区域ごとに作成する。
ただし、二段オリフィス樹の場合は除く。(「様式E youryokeisan」による。)

計算結果を簡易に確認するチェックシート。集水区域ごとに作成する。
ただし、二段オリフィス樹の場合は除く。(「様式E youryokeisan」による。)

貯留・浸透施設チェックシート【調整容量計算システム】

集水区域のエリア名を記入。

「3」「10」のどちらかを記入

直接放流区域を一つ入力可能

各浸透施設の種類ごとに4つまで入力可能

貯留施設は一つのみ入力可能

貯留施設がない場合は「最大放流量」と「池内最大水深」に「0」を入力しないと、最下段の「放流量評価」に数値が表示されない。

貯留施設がない場合は「最大放流量」と「池内最大水深」に「0」を入力しないと、最下段の「放流量評価」に数値が表示されない。

貯留・浸透施設チェックシート【調整容量計算システム】

集水区域のエリア名を記入。

「3」「10」のどちらかを記入

直接放流区域を一つ入力可能

各浸透施設の種類ごとに4つまで入力可能

貯留施設は一つのみ入力可能

新旧对照表

旧

新

設計資料編

第7章 許可申請図書等の作成事例

(13)-9 施設チェックシート(様式E youryokeisan)

(13)・9施設チェックシート(様式E youryokei san)

二段オリフィス柵の上段オリフィスに接続した地下貯留浸透施設の規模が十分であることを示す。HPからダウンロードしたエクセルファイル「youryokei san」により作成する。

[illegible]

7.34

様式E(エリア3)

地下貯留施設施設の必要設計水準、対面施設の設置のフローチャート
 ● 設計水準、必要設計水準を記入 → 設計水準が4.0以上の場合は

入力後最後に
右のOをクリック

上のOをクリックすると自動計算される。

上の「必要設計水準」より右の「設計水準」が大きいとOK。

「OK」を確認

7-38